

学ぶことは生きること

高井 正

今回、装いを新たに「出発・再出発」をテーマに募集された「第1回 日本女性学習財団 未来大賞」。男女共同参画社会、多様な人々が生きやすい社会の実現に向けて、次への一步を踏みだしたい／踏みだした人の思いや過程などをまとめたレポートを募集した本賞には、全国から44篇もの応募があった。選考委員のひとりとしてレポートを読みながら、その背景に自らをふり返り、確認し、書き残すことで、新たな出発自体をより確かなものにしていこうとする強い意欲の存在を感じた。それだけに多くのレポートの中から「未来大賞」一篇を選ぶことはとても厳しいことだった。

人生の大きな転機、例えば転勤・転職の危機をしなやかにたおやかに乗り越えていく描写には、青春ドラマを見た後のすがすがしさを覚え、また、DV被害の悲惨な状況には何とも言えないものを感じつつも、人生を再生する道のりには目頭を熱くした。とりわけ再出発せざるを得なかった個々人の問題の背景を、男女共同参画の視点から社会問題として分析していくプロセスは、学びそのものであり、レポートを書くことで、学びがより深いものになることは本賞の趣旨そのものだ。

多くの力作から初の「未来大賞」として、菊池悦子さんの『どうして私たちは輝けないのだろう』が選ばれた。「女性活躍」がめざされている今、体験から疑問を覚えた学歴や雇用形態で階層化された社会の問題について、原因を探ろうと38歳で大学受験に挑み合格。学び続けることの意義を明快な筆致で書いている。

最後にうれしいことを書く。女性センターの講座や相談などでの学びや気づきが再出発につながったというレポートが複数あった。例えば、DV被害者が学びの機会に出会い、やがては支援者になっていく歩みから、学ぶことは生きることであり、書くことは生きることを価値付けるということを再認識させてくれた。心から感謝したい。



PROFILE

たかいただし：立教大学社会教育講座特任准教授。足立区教育委員会社会教育主事を経て、2015年から現職。足立区在職中、新設の女性総合センターにて、女性大学、女性起業家支援塾、男性改造講座等の事業や女性行動計画の策定等を担当。(公財)日本女性学習財団理事、草加市そうか市民大学推進委員、清瀬市社会教育委員。主著に『大都市・東京の社会教育—歴史と現在—』(共著、エイデル研究所、2016)。